



2011年4月21日

お客様向け資料

BNP パリバ インベストメント・パートナーズ株式会社

## ブラジルの政策金利の引き上げについて

2011年4月20日（現地）、ブラジル中央銀行はCOPOM（定例金融政策委員会）において、Selic(政策金利)を0.25%引き上げ、年率12.00%とすることを決定しました。COPOMに出席した7人の委員のうち、2人は0.50%の引き上げを推奨したと発表されています。

今回の利上げは3月2日に続き今年3度目であり、合計の引き上げ幅は1.25%となっています。

ブラジルの2011年2月の鉱工業生産は、前月比+1.9%、前年同月比+6.9%（季節調整後済）となり、いずれも市場予想を上回ったことや、2月製造業設備稼働率も1月の83.1%から83.6%に上昇するなど、景気は概ね好調を維持していると考えられます。

2011年3月失業率は6.5%と3ヶ月連続で上昇しましたが、過去の水準と比較すると低位に留まっており、労働市場の引き締めによる賃金上昇、与信残高の急増、エネルギー価格の上昇等から物価が上昇しており、3月の拡大消費者物価指数（IPCA）は前年同月比+6.30%と、インフレ圧力が高まっています。

こうしたことから、ブラジル中央銀行はインフレを抑制し、持続可能な成長を確実にするため、今回の追加利上げを行ったと考えられます。ただ、急速に進むレアル高が輸出に悪影響を与えており、政府は信用拡大を抑制する政策\*も導入していることから、金利引き上げ幅は0.25%に留めたと考えられます。

今回は利上げが見送られるとの観測もありましたが、為替市場では、対ドルは1米ドル=1.57レアル、対円が1レアル=52.65円（出所：ロイター）と小幅な値動きに留まっています。

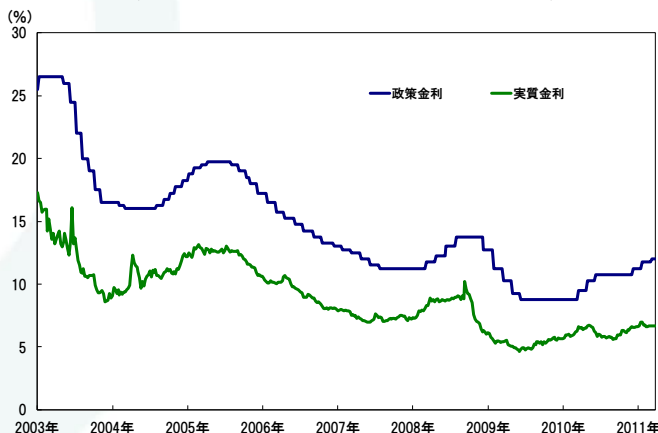
今回の利上げは株式市場の引け後に発表されましたが、利上げ自体は想定の範囲内であり、引き上げ幅も市場予想を下回ったことから、週明けの株式市場\*\*に対する利上げの影響は軽微であると考えます。

ブラジル経済は中長期的には成長が期待されますが、足元では、レアル高抑制に向けた追加政策が導入される可能性や海外要因等を勘案する必要があると考えます。

\* 企業の外貨借入れや、ブラジル人による海外でのクレジットカード支払い等に対する金融取引税の引き上げなど

\*\* ブラジル株式市場は4月21日、22日と祝日で休場

### ブラジル政策金利と実質金利の推移 (2003年2月～2011年4月20日)



2011年4月20日  
11.75% → 12.00%へ  
0.25%の引き上げ

\* 政策金利：Selicを使用。  
\* 実質金利：名目金利とインフレ率を使用し算出

本資料は、BNP パリバアセットマネジメントブラジルが作成した資料をもとに、BNP パリバ インベストメント・パートナーズ株式会社が、ブラジル市場に関する情報を提供することを目的として、2011年4月21日に作成したものであり、法律に基づいた開示資料ではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の数値、図表、見解や予測などは本資料作成時点でのものであり、予告なく変更する場合があります。尚、本資料中の過去の実績に関する数値、表、見解や予測などを含むいかなる内容も将来の運用成績を保証するものではありません。